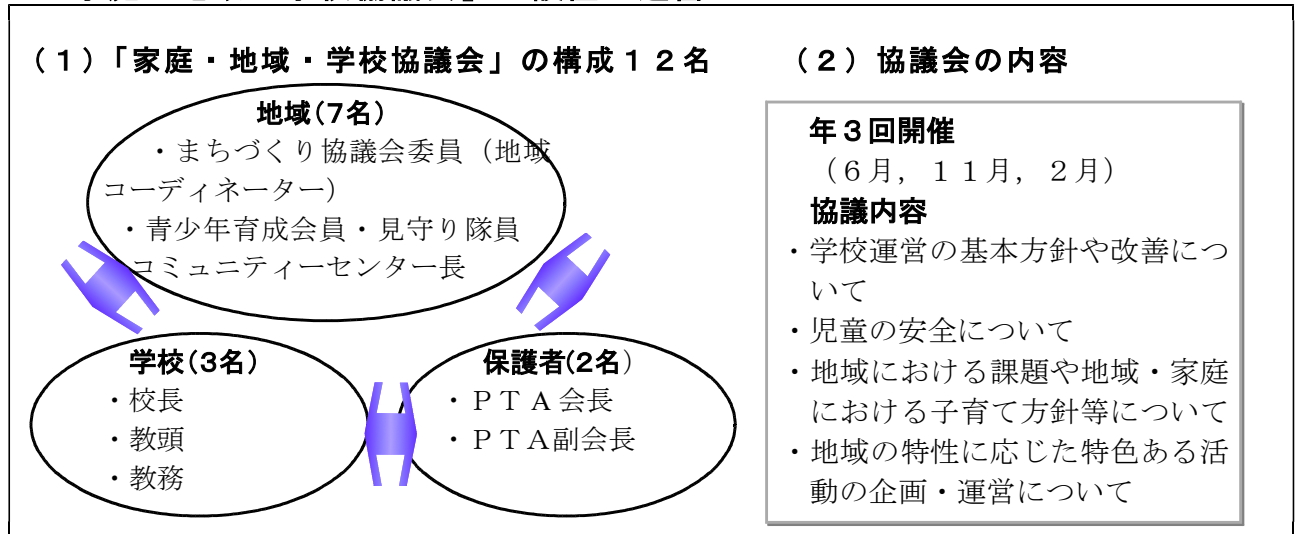


2 「家庭・地域・学校協議会」の設置と運営



(3) 協議会における成果と課題

- ・第1回では、今年度の学校の行事計画と活動の内容について知らせ、学校評価に役立てたいと考えた。
- ・第2回では、学校行事(明章祭)で活動の成果を評価してもらい、第3回で一年間のまとめとしての第三者評価をもらった。
- ・食と勤労生産の大切さを中心とした活動であったが、今年度の活動によって環境保全にも活動の幅が広がりを見せている。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

地域の特色である農業(米作り等)を体験した1年目。地域の特色歴史を学ぶ活動を行った2年目が終了し、これまでの体験を通して郷土に誇りと愛着を持たせることができた。3年目はこれからもふるさと「高椋東部」に愛着と誇りを持ち続けるために、自分たちの希望する地域の未来について探る。

(2) 活動の実際

①「たかとり」の郷づくりに取り組もう

実際の農業生産活動として、5年生は米作り、1・2年生はさつまいも作りに取り組んだ。収穫した米や芋は、明章祭でもちつきをして地域の人たちと味わったり、焼き芋を焼いたりした。

②明章祭

今年の明章祭は、活動についてまとめの経過報告ができたらと考えた。この地域が将来どのように変わっていくのか、未来に何を残したいのかを地域の方々に発信したいと考えた。そこで、学習発表会形式で行うことにした。各学年の発表は、水を得て田畑を耕すための苦労や、水も空気もきれいな地球であってほしい、ゴミの少ないふるさとであってほしいなどと、よく考えられていて大人達も感心していた。



JA婦人部と田植え



明章祭りでの発表より

(3) 地域コーディネーターの活動概要

まちづくり協議会委員1名 JA職員1名 専業農家1名の3名に地域コーディネーターとして協力していただいている。

JA花咲ふくい職員の方と専業農家の方は、米とさつまいも作りの段取りを主にしてくださいました。おかげでJA婦人部の方達と一緒に田植えをすることができました。たかとり」の郷づくり協議会委員の方は、協議会のメンバーから明章祭で豚汁作りやもちつきを指導していただき、

P T Aの方達も一緒に活動したので、それまでは顔を知っていても名前は知らない人同士がつながることができた。

(4) 特に工夫した事項 工夫や配慮事項

できるだけまちづくり協議会や保育園、コミュニティセンターなど、地域の人材を資源として掘り起こしながら、さまざまな人に協力していただいた。子供110番の家、見守り隊、たかとの郷づくり協議会などに協力を求めながら、地域に出て行き、保育園児への読み聞かせ、たかとり祭りでのステージ発表など、少しでも喜んでもらえ、子供たちにしかできないことを地域に発信した。

(5) 成果と課題

高椋東部地区の過去→現在→未来を探ってきた。今年は総まとめとしてこれからの高椋東部地区がどうなっていくのか、どうなってほしいのかを明章祭りで発表した。食べ物を作ることに限っては、たかとの郷づくり協議会の方々にお手伝いをお願いし、地域との交流の中で得たものを目に見える形で地域に発信したいと考えた。

これまでの活動によって、地域の特色である農業（米作り等）を体験し、収穫物を調理する地産地消の体験を通して地域に関心をもち、地域の未来に目を向けさせることができた。また、鳴鹿堰堤から坂井市の地下をパイプラインが通り、田畑に用水をいつでも供給できることを知り、農業をさらに発展させることができる可能性があることも学んだ。未来の環境や郷土作りの思いが一層深くなったと考えられる。一方で、地域を知ることについては不十分な点も多かった。児童等の父母は平日町外で働く人が多く、地元のことについて詳しくない。さらに、地域に伝わる伝統行事などが少子化や高齢化に伴い廃れてきていることも、そういったことの一因かも知れない。

地域を良く知りたい。より良い地域を作りたい。そのために何が必要なのかを考え追求し、その取組を実践していくということについて一定の成果は出せたと思う。これからの高椋東部地区について考えたことが、自己満足で終わらぬよう、継続的な取組と新たな取組とのバランスを考えながらこれからの活動を継続させていきたい。